



浅見俊雄氏が名誉審査委員長となり、助成事業のスタート時から14年間、審査委員を務めてきた伊坂忠夫氏が新審査委員長に就任。「質濃い助成」「YMFSファミリー」といった伝統が受け継がれた

「質濃い助成」の伝統を継承し、 審査委員長のバトンをパス。 新体制で助成事業は次のステージへ。

YMFSスポーツチャレンジ助成の審査委員長は、助成事業の起ち上げ以来、14年間にわたり浅見俊雄氏（東京大学 名誉教授）が務めてきた。初年度（2007年）の審査委員体制は、浅見審査委員長以下、体験分野4名、研究分野9名の計14名でスタートした。

浅見氏は、厳正かつフェアな審査で審査委員会をリードしたが、本領を発揮したのは助成対象者を決定した後だった。「この財団の助成は、しつこいですよ。質が濃いです」。第3期生を迎える助成金贈呈式の挨拶でそう話した浅見氏は、この年から四半期報告と成果報告に加え、年間プログラムに中間報告会を組み込んでチャレンジャー一人ひとりを熱心にサポートした。幅広い知識と経験に裏付けられた的確な評定と、若いエネルギーを勇気づける助言。そして最後には必ず「まあ、がんばりなさいよ」と優しい笑顔でチャレンジャーたちの背中を押した。

2020年10月、浅見氏が名誉審査委員長に就任。後任の審査委員長には、初年度から審査委員の一人として助成事業を支えてきた伊坂忠夫氏（立命館大学 副学長）が就任した。伊坂審査委員長はスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでの挨拶で「YMFSの助成は単なる助成ではありません。チャレンジャーにYMFSファミリーに加わってもらい、そのファミリーを審査委員やOBチャレンジャーが師範代や道場主として支援していくという伝統があります」と、浅見氏を中心に築いてきた伝統的な風土の継承を示した。

一方で、審査委員の若返りも進んだ。後にOB・OGチャレンジャーが審査委員として若きチャレンジャーを支援していくというループが進展し、翌2021年度には新たに吉岡伸輔氏（東京大学大学院 准教授）、瀬戸邦弘氏（鳥取大学 准教授）らが名を連ねた。第16期生の選考審査は、こうした新たな体制でスタートを切った。

2020 / 2021 令和2年度

新型コロナウイルスが世界で猛威を振るい、日本でも史上初の緊急事態宣言が発令された。この影響で東京オリンピック・パラリンピック2020は1年の延期が決定した。また、YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングも、初のオンライン開催となった。9月には菅義偉氏が第99代内閣総理大臣に就任した。

スポーツチャレンジ助成事業

東京オリンピック・パラリンピック2020の開催が1年延期となり、その影響で一部のチャレンジャーが計画の変更を余儀なくされた。また、緊急事態宣言下でトレーニングや研究にも支障が出たが、多くのチャレンジャーが工夫を重ねて目標の実現を目指した。年度末のスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは初のオンライン開催となった。



■ 2020年度（第14期生）助成概要

	申請数	採択件数	助成金額
体験助成	55件	16件	1,546万1,900円
研究助成	50件	18件	1,434万743円
計	105件	34件	2,980万2,643円

スポーツチャレンジ体験事業

■ ジュニアヨットスクール葉山

36名のスクール生で新学期をスタートしたが、コロナ禍の影響で断続的な休校が生じた。8月以降再開した各種の大会にはスクール生も積極的に参加し、好成績を残して全国大会に出場するなど大きな成長を見せた。

■ セーリング・チャレンジカップIN浜名湖

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者の安全を最優先して大会を中止した。大会中止は2年連続となった。

■ スポーツ教材の提供

全国657校・団体から申請を受け、ヤマハ発動機ジュビロの大戸裕矢主将による抽選を経て、計120団体にサッカーボールやラグビーセットを提供した。また、指導サポート付き教材提供「はじめてのラグビー」を2校で計4回開催した。



■ 全国児童 水辺の風景画コンテスト

396団体から6,556作品の応募があり、審査会を経て、入賞23作品と入選337作品を決定した。



スポーツチャレンジ啓発事業

■ 第13回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞



[奨励賞] 越智 貴雄 氏

写真を通しパラアスリートのアスリートとしての活躍・魅力を伝播

■ 調査研究

障害者スポーツの分野では、①障害者スポーツ選手のキャリア調査、②コロナ禍におけるアスリートの活動状況調査、③ユニバーサルスポーツ体験での児童の意識変容調査を実施。また、トップスポーツ分野においては、トップスポーツ組織の地域振興活動をテーマに関係自治体を対象とした調査を実施した。